

# 製造業多いから？男性収入高く？

# 「女性活躍」名古屋の壁

二十五日投開票の名古屋市長選では、主要一候補が公約に女性活躍推進を盛り込んだ。ただ、女性の社会進出を示す各指標を見ると、名古屋は全国の政令指定都市の中でも下位に低迷している。現状を変えるには、何が求められているのだろう。(宮畑護)



採用した市職員 (%)	
1 新潟市	87.9
2 仙台市	55.7
3 静岡市	55.3
7 名古屋市	49.7
20 札幌市	31.6

審議会などへの登用 (%)	
1 北九州市	52.2
2 岡山市	42.7
3 新潟市	42.4
11 名古屋市	34.5
20 熊本市	24.2

市幹部職員 (%)	
1 さいたま市	21.2
2 相模原市	19.6
3 川崎市	18.3
15 名古屋市	13.0
20 浜松市	9.2

市長 (%)	
1 神戸市	10.85
2 熊本市	10.50
3 千葉市	10.18
16 名古屋市	8.15
20 浜松市	6.20

市長は東京商工リサーチ名古屋支社調べ。そのほかは内閣府による

「女性の比率」政令指定都市20市ランキング

## 社長比率など政令市で下位

「経営者の集まりなどで、『女性に何ができるんだ』と露骨に言われたこともありました」  
ウエブサイト制作などを手掛ける名古屋市中区の「ラッシュ・インターナショナル」社長の倉田満美子さん(金髪は振り返る。トヨタ自動車に勤めたが、結婚を機に退社。出産を経て、二十五年前に起業した。女性の視点や感性で、社会に役立つことが社の方針。約三十人の社員全員が女性だ。子どもの急病のために休んでも、出勤扱いにする制度を導入している。女性ばかりの職場で、急に休むことへの理解はあるが、互いのカバーは大企業ほど楽ではない。倉田さんは「保育園や病児保育の拡充は行政の仕事」と期待する。

東京商工リサーチ名古屋支社によると、名古屋市内の社長の女性比率は8・15%で、全国二十の政令指定都市で十六位。東京二十三区の9・46%、大阪市の8・8%より低い。同支社情報部の釣場想平さんは理由に、名古屋周辺でものづくりが盛んなことをあげる。この業界は伝統的に男性従業員が多い。「東京や大阪と比べてメ

ーカの比率が高く、男性経営者が多い。飲食、アパレルなど、女性が手掛けることが多い分野の会社数は逆に少ない」と指摘する。名古屋市の女性活躍推進施策を統括する伊東恵美子副市長は、女性の社会進出が低調な背景に、この地域の企業の堅調さをあげる。「業績の良い企業が多い。比較的男性の収入が高いことも、女性が家庭に入る要因ではないか」自身は名古屋市内の女性副市長だが、市役所内部の女性の昇進は多くない。内閣府調査では、名古屋

市の管理職に占める女性の割合は昨年四月一日現在、13%で政令指定都市で十五位だ。伊東副市長によると、女性の昇進の妨げとみられるのが、係長昇任で必須の筆記試験。法知識などを問うマークシート方式試験と論文試験に合格しなくてはならない。大学卒業後の入庁者は五年以上、短大卒は七年以上の実務経験が必要。受験資格を得たころに出産、子育てをするため、昇進をあきらめる女性が少なくない。こうした女性にチャンスを与える狙いもあって、市は筆記試験を受けなくても昇任できる制度の検討を始めている。



「ラッシュ・インターナショナル」のオフィス。社員全員が女性だ＝名古屋市中区で(浅井慶撮影)

## 就職がしやすい環境を

【河村たかしさん】公約に「すべての女性が輝く社会の実現」「女性が就職しやすい環境つくり」と記す。名古屋市の管理職の女性比率が低いことには「どえりゃあよっけ引き上げたい」と語っている。

【横井利明さん】公約に「民間出身の女性副市長登用」「各分野の指導的地位に女性が占める割合を少なくとも30%程度とする目標の実現」などを掲げる。市管理職の女性比率低迷には、庁内での保育所整備などを唱える。

## 指導的地位 割合30%に

伊東副市長は、女性活躍推進に市長が果たす役割について「もっと女性が必要、という声が地域で大きくなるよう、メッセージを発してほしい」と語る。



名古屋市長選に関する記事は中日新聞Webでご覧いただけます